



3. 環境目的・目標及び達成状況

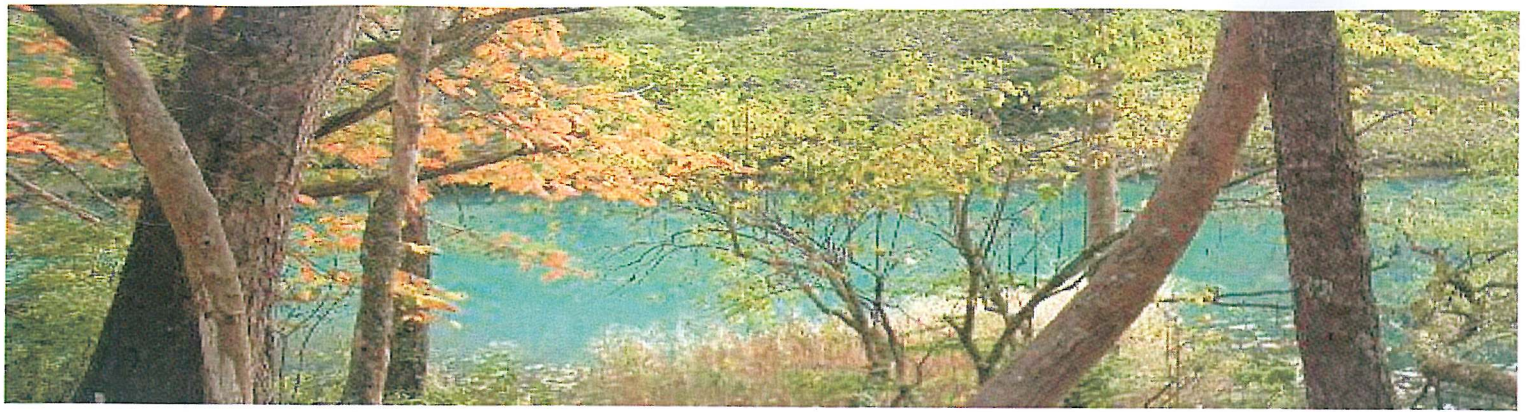
環境保全を継続的に向上させるため、環境マネジメントシステムにより年度毎に環境目的・目標を定め、取り組んでいます。

2007年度の環境目的・目標及び達成状況は次の通りです。

2007年度 環境目的・目標及び達成状況		
環境目的・目標	計画	達成状況
【社会的責任の達成】 1. 環境関連法令の順守 2. 環境保全協定に基づく環境報告書の作成と公表	1. 法に定められた定期報告を正確に実施する。(PRTR、環境報告書、産廃物実績報告、放射線管理報告等) 2. 法令順守状況を監査等で確認する。	1. 定期報告は6月中～6月末のそれぞれの指定期日まで及び環境報告書は7月に報告を完了した。 2. 環境管理システム内部監査(7月～8月)により関係法令の順守状況を全部署点検し問題ないことを確認した。
【有害物排出削減と管理の強化】 1. VOC(揮発性有機化合物)排出濃度の自主管理値達成と総排出量の継続的削減	1. 有機溶剤脱臭設備、回収設備の維持管理を継続し、排出濃度を自主管理値以下とする。 2. 塩化メチレン排出量の削減方策を検討する。	1. 設備の監視強化、適正運転により溶剤の大気排出濃度の自主管理値を達成した。 2. 技術的に削減可能策を目処付けした。
【産業廃棄物削減、有効利用・リサイクルの促進と埋立量の維持】 1. 産業廃棄物量を継続削減する 2. 埋立廃棄物のゼロエミッション(※1)達成と絶対量の維持 3. 有効利用・リサイクルの向上	1. 特定した廃棄物発生量を入庫量原単位(※2)で5%削減する。 2. 分別の徹底により埋立廃棄物量を総廃棄物発生量の0.5%未満を継続し、且つ埋立廃棄物量0.5ton未満を目指す。 3. サーマルリサイクル、マテリアルリサイクルにより再資源化率99%以上を維持する。	1. 特定した廃棄物全てにおいて入庫量原単位5%削減を達成した。 2. 埋立廃棄物の分別を徹底し埋立比率0.04%でゼロエミッション(※1)を継続して目標を達成した。 3. 再資源化を継続し再資源化率99%以上となり継続目標達成した。
【保安防災の強化】 1. 保安防災上のハイリスク(自然災害・プロセス災害等)の継続低減	1. 保安防災リスクアセスメントし、防災管理の強化を継続実施する。	1. 防災訓練時の避難訓練の実施、確実な防災設備の点検実施及びP波感知地震計への更新を実施した。
【従業員の環境保全意識の醸成】 省エネルギーを通じた環境保全への貢献の体感及び工場周辺琵琶湖岸の清掃活動を実施する。(継続実施)	1. 各部署で実施できる省エネルギー対策を計画的に実行する。 2. 工場周辺琵琶湖岸の清掃活動を年4回実施しゴミを回収する。	1. 各部署の目標に織り込み、各部署の節電、節水意識の浸透を図った。 2. 年間スケジュール通り4回実施し、総動員数98名で210kgのゴミを回収した。

※1：ゼロエミッションとは、当社では「廃棄物発生量に対し、最終埋立処分量が0.5%未満になること」と定義しています。

※2：入庫量原単位とは当社では、「廃棄物発生量/生産量」と定義しています。



4. 監視・測定

環境に著しい影響を及ぼす可能性がある大気汚染、水質汚濁物質の排出量、及び騒音・振動の定期的な監視・測定を行い、法的規制値内であることを確認しています。

2007年度の監視・測定結果は次の通りです。

[大 気]

施設名	測定物質	法的規制値	測定位置	測定結果					
				2007年度			2006年度		
				下期	上期	判定	下期	上期	判定
ボイラー	SO _x	K=8.76以下	排出口	—	—	—	ND	0.40	○
	NO _x	150ppm以下	排出口	22	31	○	36	39	○
	ばいじん	0.1g/m ³ 以下	排出口	<0.001	<0.001	○	<0.001	<0.001	○
コージェネ設備	SO _x	K=8.76以下	排出口	—	—	—	ND	0.15	○
	NO _x	70ppm以下	排出口	18	23	○	23	100	○
	ばいじん	0.05g/m ³ 以下	排出口	<0.001	<0.001	○	<0.001	<0.001	○
乾燥炉	NO _x	230ppm以下	排出口	17	19	○	20	17	○

※2006年度下期より施設の燃料をA重油から天然ガスに転換しています。上表中の法的規制値は天然ガス転換後の値を記載しています。

〈測定頻度〉 1. 測定は1回/6ヶ月。

2. ボイラーは2基、乾燥炉は6基あり、記載値はその平均値です。

〈判定〉 ○印は測定結果が法的規制値以内であることを示します。



灯油から天然ガスに燃料転換しCO₂排出量削減へ寄与した有機溶剤脱臭炉



重油から天然ガスに燃料転換しSO_x排出量を“0”にしたコージェネレーション設備



〔 水 質 〕

施設名	測定物質	法的規制値	測定位置	測定結果					
				2007年度			2006年度		
				下期	上期	判定	下期	上期	判定
総合排水口	pH	6.0~8.5	排水口	7.5	7.4	○	7.5	7.2	○
	BOD	20mg/l以下	排水口	1.0	2.3	○	2.2	2.4	○
	COD	20mg/l以下	排水口	2.9	3.2	○	2.7	2.7	○
	SS	70mg/l以下	排水口	0.9	2.4	○	1.0	0.9	○
	油分	5mg/l以下	排水口	0.04	0.08	○	不検出	不検出	○
	全窒素	8mg/l以下	排水口	1.0	1.1	○	1.0	1.3	○
	全りん	0.8mg/l以下	排水口	不検出	不検出	○	不検出	不検出	○
	フェノール	1mg/l以下	排水口	不検出	不検出	○	不検出	不検出	○
	銅	1mg/l以下	排水口	0.04	0.03	○	0.03	0.02	○
	鉛	0.1mg/l以下	排水口	不検出	不検出	○	不検出	不検出	○
塩化メチレン	0.2mg/l以下	排水口	0.017	0.009	○	0.011	0.020	○	

〈測定頻度〉 1. 一般項目（pH、BOD、COD、SS、油分）及び塩化メチレンは週1回測定の平均値です。

2. 全窒素、全りん、フェノール、銅、鉛は月1回測定の平均値です。

〈判定〉 ○印は測定結果が法的規制値以内であることを示します。

〔 騒音・振動 〕

施設名	測定物質	法的規制値	測定位置	測定結果					
				2007年度			2006年度		
				下期	上期	判定	下期	上期	判定
敷地境界	騒音	65/70/60dB以下 *1	敷地境界 10点	54~60dB [10:00]	51~62dB [06:30]	○	50~60dB [10:00]	50~62dB [06:30]	○
				50~57dB [22:30]	50~59dB [20:30]		50~58dB [22:30]	50~60dB [20:30]	
敷地境界	振動	65/60dB以下 *2	敷地境界 4点	40dB以下 [10:00]	40dB以下 [06:30]	○	40dB以下 [10:00]	40dB以下 [06:30]	○
				40dB以下 [22:30]	40dB以下 [20:30]		40dB以下 [22:30]	40dB以下 [20:30]	

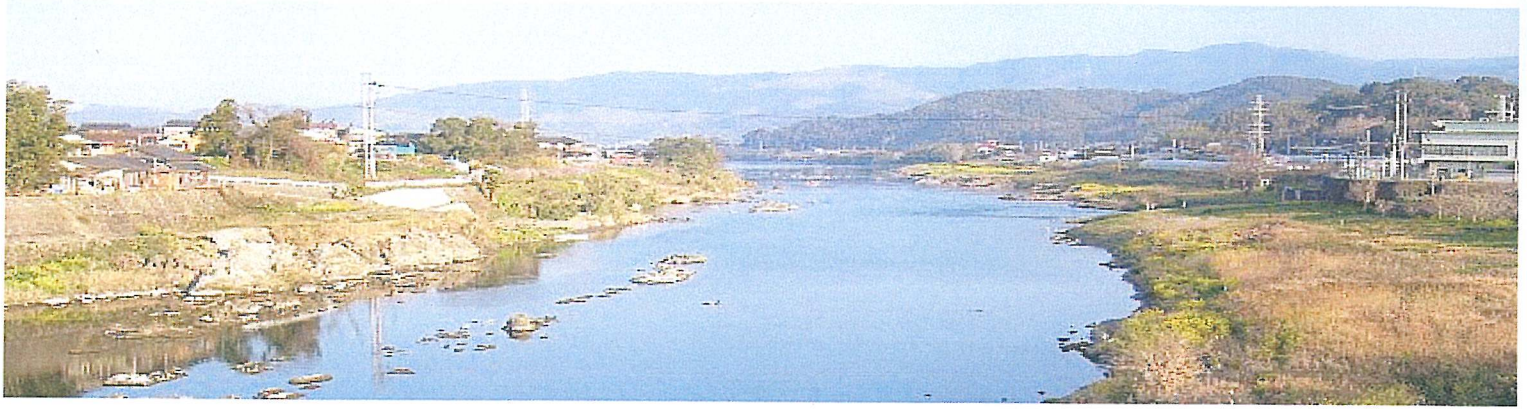
〈測定頻度〉 2回/年。

〈判定〉 ○印は測定結果が法的規制値以内であることを示します。

*1 騒音法的規制値：6:00~8:00は65dB以下、8:00~20:00、20:00~22:00は70dB以下、22:00~6:00は60dB以下

*2 振動法的規制値：8:00~20:00は65dB以下、20:00~8:00は60dB以下

騒音、振動の [] は測定を実施した時間を記載しています。



5. 環境監査

環境目的・目標の進捗状況及び環境マネジメントシステムの確実な運用をチェックするため、外部機関や社内及び工場内の監査員による環境監査を実施しています。

2007年度は次の環境監査を実施し、環境マネジメントシステムが機能していることを確認しました。

●環境内部監査（7、8月）

資格認定を受けた14名の内部監査員が14部署の総てを内部監査し、環境マネジメントシステムが機能していることを確認しました。



●安全査察（11月）

経営層（中央安全会議議長）による環境、安全衛生、保安防災、品質に係る安全査察を受け、環境保全活動の継続的な前進が確認されました。



●外部機関によるISO14001維持審査（2008年3月）

認証機関によるシステム維持審査を受審し、滋賀工場の環境マネジメントシステムが引き続き機能していることが第三者機関により認められました。

